卒業論文

筑豊における炭鉱記憶継承の隔たりと山本作兵衛のかけ橋
――継承者と被継承者の語りから――

2019 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

1LT19107W 瀬戸辰騎

2023 年 1 月提出

要約

本研究では、筑豊地域における記憶継承のありかたと、記憶継承者と被継承者における隔たりについて考察していく。筑豊地域は明治から大正、そして昭和にかけて日本最大級の産炭地として現在も著名である。しかしながら、戦後においては政府によるスクラップ・アンド・ビルド方式によって意図的に解体させられた産業であり、筑豊においては栄えていた時代とは裏腹に「黒い失業地帯」と呼ばれるほどの極貧地帯が広がった。だがその名残は現在まで続いてはいるものの、そうした負の遺産は筑豊地域においては継承されていないのではないかという考えに至ることになる。これが本研究の始まりである。

筑豊地域においては貧困が最も大きな炭鉱の負の遺産である。それは現在も続いており、特に顕著な地域では生活保護率が 10%を超えるなど福岡県においても有数の貧困地域である。また、同県の産炭地である三池炭鉱と比べると、早期に閉山したことから現存する炭鉱遺産が極めて少数であることから世界遺産の登録リストから除外されたこと、三池炭鉱と比べると大きな事故や争議はなかったものの、負の遺産としての炭鉱は現在も存在しているということ、また山本作兵衛の作品群が世界記憶遺産に登録されていることが特徴として残っている。そのうえで、そうした特徴的な筑豊地域に目を当て負の遺産の継承実践について集合的記憶論を用いながら分析を行う。

集合的記憶論の古典であるアルヴァックスは、記憶を個人的記憶と集合的記憶の 2 つにわけて考えている。また、有末は個人的記憶が集合的記憶となるためには外部的社会事実が必要であると指摘し、「社会の記憶」でなければならないと主張している。本研究ではこの外部的社会事実が筑豊においては山本作兵衛コレクションの世界記憶遺産登録以外に無いことから、筑豊地域においては炭鉱の集合的記憶は形成されていないという結論に至った。また、松浦の議論から負の遺産の記憶継承には「継承型」「忘却型」「拒絶型」の 3 類型があるのではないかと考え、筑豊はそのいずれにも属さない「筑豊型」ではないかと定義した。その上で、集合的記憶が形成される条件についてまとめ筑豊における記憶継承のあり方について 3 つの仮説を立てた。

インタビュー調査では、記憶を伝える側の目線として田川市石炭・歴史博物館の学芸員 2 名に、記憶を伝えられる側の目線として友人 2 名と母の合計 5 名にインタビュー調査を行った。インタビュー調査の目的としては、前章で立てた 3 つの仮説を検証することが主でありそれらに関する質問を中心に行った。調査の結果として、仮説では博物館は負の遺産に目を向けず正

の側面を強調しているのではないかと考えていたが。実際には両者をバランスよく伝えているということが判明した。しかしながら、記憶を伝えられる側は3者とも炭鉱の街としての筑豊に悪いイメージを持っておらず、負の側面についてはほとんど考慮していないようであった。このことから、記憶継承者と被継承者には負の遺産の記憶継承をめぐって緩い隔たりがあることが判明した。

インタビュー調査の分析をもとに仮説について再検討を行った結果、筑豊においては炭鉱遺産が極めて少数であることがむしろ筑豊における炭鉱遺産を負の遺産としてではなく「良いもの」として継承できるようにしているということがわかった。しかしながら、このような継承は不完全な形であり、炭鉱に終える集合的記憶の形成を阻害している。また、記憶継承者と被継承者の隔たりは埋める必要がある。このことから、語りの中で登場した「山本作兵衛コレクションはテキストだ」という言葉に着目し、隔たりが生まれる2つの要因について山本作兵衛の作品がそれらを解消することはできないかということについて考察を行った。結果として、山本作兵衛の作品は炭鉱記憶を継承する際のテキストとして十分機能することがわかり、隔たりを埋める架け橋になりうるのではないかという結論に至った。しかしながら、山本作兵衛の作品をテキストとして記憶を継承されているのは現在の子ども世代であり、そのような人々が成長してどのような印象を炭鉱に対して持つかは現時点では知りようがない。そのため、本研究を長期的目線で活用し、将来的な研究を行うことが今後の課題である。

目次

1 はじめに 1
1.1 研究の背景 1
1.2 研究の目的 1
1.3 炭鉱と炭坑 2
2．筑豊地域 3
2.1　筑豊炭鉱史概要 3
2.2 筑豊の現在 4
2.2.1 筑豊の立地 4
2.2.2 筑豊の現状 4
2.3 三池炭坑との比較 5
2.3.2 遺産 6
2.4 小括 7
3 .記憶論と負の遺産 9
3.1 集合的記憶論 9
3.1.1 アルヴァックスの議論から 9
3.1.2 松浦の議論から 11
４．インタビュー調査 19
4.1 記憶を伝える側の目線―学芸員の語りから― 19
4.1.1 調査概要 19
4.1.2 学芸員の語りから 20
4.1.3 小括 32
4.2 記憶を伝えられる側の目線―友人と母の語りから― 33
4.2.1 調査概要 33
4.2.2 友人と母の語りから 33
4.2.3 小括 37
5.考察 38
5.1 仮説から 38
5.2 記憶継承者と被継承者の隔たり 41

5.3 山本作兵衛の架け橋 42
5.4 おわりに 44